

子ども生活学部の教育課程編成の基本的な考え方（カリキュラムポリシー）

- ① 子どもと共に生活を創る人として、子どもの生活の安全に配慮し、豊かな生活・保育環境をつくることのできる能力を育成する。
- ② 子どもや保育者や同僚とのコミュニケーション力、積極的に他者とかかわる意欲と資質を育成する。
- ③ 子どもの成長・発達にかかわる専門職としての知識・技能を磨き、子どもが主体となる生活や社会を創り出す力を育成する。
- ④ 子どもに関連する得意な分野の専門性を深め、さまざまな保育の場で、子どもを豊かに育てる力を育成する。
- ⑤ 理論を応用する実践力や、実践を振り返り洞察する力を育成する。

教育課程編成の基本的な考え方及び特色（カリキュラムポリシー）

教育課程編成の考え方

全人教育を目標とする本学は、すべての人間に対する愛情と尊重の心を持つ調和のとれた人材を育成することを目的とする。そして、子ども生活学部では、育ちつつある幼い子どもに対する深い知識と理解を持ち、子どもが生活と学びの主体として生き生きと育つことができるよう支援する人材を育成する。

教育課程は、前述した、全人教育を目標として養成する人材像の育成を視野に入れ、まず、(A) 教養教育としての基本となる基幹科目を置き、次いで (B) 子ども生活理解のための教養基礎科目として一般教養科目を充実させて設置する。これらの基礎教育科目をもとに、(C) 将来の子どもに関連する職業に関連する専門教育科目を置くという考え方により、教育課程を編成する。専門教育科目においては子ども生活学部の目的と養成する人材像に基づき、特に、子どもの生活と保育・教育の専門家として質の高い幼稚園教諭、保育士の養成を目指すための教育課程を重視している。

A 全人教育を目的とする基幹科目	
B 全人教育のための子どもの生活理解に関する教養基礎及び教養演習科目	
C 子どもの生活と保育・教育の専門家を育てる専門教育科目	
I 保育と教育	I～Vに係る演習・実習科目
・保育・教育の本質と目的の理解	
・保育・教育の対象の理解	
・保育・教育の内容・方法の理解	
II 家庭支援と福祉	
III 地域と子育て支援	・基礎技能と教科
IV 子ども産業と経営	・教育・保育実習
V 音楽療法	・卒業研究

C の専門教育科目の教育課程の編成においては、前述した養成する人材像と将来の職業コースに対応させて、教育内容を、I 保育と教育、II 家庭支援と福祉、III 地域と子育て支援、IV 子ども産業と経営、V 音楽療法の5つの分類から科目群を編成した。

I **保育と教育**に分類される科目群は、どのような職業の専門家となる場合でも、子ども生活学部を卒業するに当たって、必ず学んでおくべき教育内容と考え、教育課程表の専門科目の最初に置いて強調している。この教育課程には最も多くの科目を配置しているが、さらにこの内容を次の3つのサブカテゴリーに分け、教育課程の概要を示す表においても教育内容が明確になるように構成した。

- **保育・教育の本質・目的の理解**
- **保育・教育の対象の理解**
- **保育・教育の内容・方法の理解**

保育と教育に関する科目群を学ぶことにより、子どもの保育・教育とは基本的に何を目的として何をその本質と考えなければならないか、また、保育・教育の対象である子どもについて、心とからだの発達についての知識を持ち、子どもの生活や学びについての理解を深め専門家としての資質を高めることが期待される。さらに、保育の内容・方法についての科目群から、子どもの生活や遊びの中で、どのような配慮や働きかけをすれば、子どもが主体的に学び、どのような発達をしていくことができるかを具体的に学ぶことができるであろう。保育と教育に関する科目は、幼稚園教諭や保育士の資格を取得するために必要な科目を多く含む科目群であるが、同時に「子ども生活学」を学ぶ上で、すべての進路に必要な専門科目の基本としても位置付けている。

これまで述べてきた教育課程編成の考え方と構成をまとめると、下記のとおりである。

A 全人教育を目的とする基幹科目

本学の建学の精神である全人教育を目的とする基幹科目としては、社会人としての資質、生活力、コーディネート力、問題解決能力、自己管理能力、倫理観、社会的責任などを育成していくための科目を設置する。4年間の大学での学びの土台を築き子ども生活学全体を見通すための科目、人としての基本的なことがらを理解し保育者としての教養を身につけるための科目、生活者としての基本的な生活する力を滋養するための科目、学生自身の将来を見通すことを目的とする科目を設置していく。

B 全人教育のための子どもの生活理解に関する教養基礎及び教養演習科目

全人教育のための教養基礎科目として、子どもの生活理解のための教育課程を設定する。基礎教養として生活学の基礎となる法学、社会学、心理学、歴史学、家政学などの様々な学問を配置する。子どもの生活を歴史学、社会学、コミュニケーションの心理学、社会福祉学などの視点から学ぶことで、社会的存在としての子どもの理解し、子どもをとりまく生活の実態と課題についてより深い考察ができることを期待して

いる。

また、専門教育を受ける土台として、自分自身の健康管理とスポーツを、英語をはじめとする第二外国語の習得、情報処理の技術と実践などの基礎教育を、演習を通して身につける。

C 子どもの生活と保育・教育の専門家を育てる専門教育科目

教育課程の C の領域は、子どもの生活と保育・教育の専門家を育てる教育課程を配置する最も重要な部分となる。この構成は、前述した子ども生活学部で養成する5つの人材像に基づき、次の5つの科目群を構成している。

I 保育と教育

子どもの生活と心身の発達に広い知識と深い理解をもち、子どもを生活と学びの主体として育てることのできる人材を育成する科目群

II 家庭支援と福祉

子どもの育つ家庭と地域環境を理解し、親や家族、地域の子育ての営みを支援する人材を育てる科目群

III 地域と子育て支援

地域社会の理解と子育て支援の意義、支援技術及び方法を理解し、子育て支援活動に携わる人材を育成する科目群

IV 子ども産業と経営

子どもの発達と生活を総合的に理解し、子どものための産業や事業に従事する人材を育成する科目群

V 音楽療法

音楽療法を取り入れて、乳幼児のひとり一人に応じた保育の質を高める。音楽療法士2種の資格を取得する人材を育成する科目群